

平成26年度 社団法人日本環境アセスメント協会 第10回技術交流会 展示発表
平成26年12月4日(木)開催

2. プラスティネーション標本で生き物を実感する

日本エヌ・ユー・エス(株)

プラスティネーション標本とは、生き物の水分や脂質分を合成樹脂に置き換える技術を用いて作られた標本である。この標本の特徴は、「素手で触ることができる」「内臓など体の中身もそのまま保存できる」「標本の取り扱いが簡単」などである。これらの特徴を生かすことで、啓蒙普及活動や教育、展示などの様々な場面での活用が見込まれる。今回は実物標本を展示して、その特徴と作成方法、および、活用事例の一部を紹介する。



プラスティネーション標本で生き物を実感する

岡 薫・石橋 陽一郎・溝口 雅彦（日本エヌ・ユー・エス株式会社）、吉富 友恭（東京学芸大学）

プラスティネーション標本とは、生き物の持つ水分や脂質分を合成樹脂におきかえる技法をもちいて作られた標本です。この標本の特徴を生かすことで、教育や展示などの様々な場面での活用が見込まれます。その特長と活用事例の一部をご紹介します。

さわれる — 視覚と触覚で実感 —

素手でさわることができます。たとえば同じ「ナマズ」の仲間でも、体の形、歯の鋭さ、ヒレに隠れた棘の存在をいろいろな角度から細かく観察し、直接ふれることで生き物を実感することができます。



中身もそのまま — 各器官のつながりと配置を実感 —

切断が可能です。外見だけでなく内臓も生時に比較的近い状態で標本化されるため、各器官のつながりや配置の立体的な観察が可能です。



取り扱いが簡単 — どこでも気軽に展示 —

標本の維持・管理に特別な薬品や容器は不要です。持ち運びも気軽にできます。



【展示事例】

日本動物学会関東支部動物学ひろば、独立法人海洋研究開発機構、江の島水族館、大洗水族館、特別巡回展「川と海を結ぶ魚たち」ほか